杉戸町今昔往来伝
～古きをたずねて杉戸を再発見～
第116回

郷土の偉人・大島有隣
―石門心学入門⑱―

有隣が最も活躍した文化・文政期は、京都心学と対立したこともあり、心学の教勢分裂時代とも言われています。その中で、神道倫理を基底とした独自の思想体系を編み上げた有隣心学は、異彩を放つものでした。有隣の心学教勢を中心に推移していた時代が文化・文政期であると言っても過言ではありません。

換言すれば、大島有隣の全国的ともいえる精力的な遊説活動が、各地での心学の興隆、社会教化に測り知れない功績を、最も残したともいえます。

有隣遊説の足跡は、中国地方では、備前・備中・石見・安芸・備後の五か国（現岡山県・広島県）、関東地方では、武蔵・下野・常陸・下総の四か国（現栃木県・茨城県・千葉県・埼玉県・東京都）に及んでいます。同時にそれは、中沢道二門下がそうであったように、有隣門下からも優れた弟子たちが、各地から輩出したことを意味していると言ってもよいでしょう。

実際、有隣門下からは、数多の名を馳せた心学者が出ています。そして、それら門人を通じて、さらに奥羽・中部・中国・四国・九州の各地へと、心学の新たな開拓地が拡大されていきます。

例えば、有隣門下に田中一如という人物がいますが、彼は松山（愛媛県松山市）に帰郷後、「六行舎」を興し、松山藩や今治藩（愛媛県今治市）での庶民教育に尽力、松山心学の始祖と呼ばれています。その六行舎門の逸材に、近藤平格という人物がいますが、その平格も実は有隣門下です。平格は、伊予（現愛媛県）の心学者にとどまらず、上州（現群馬県）自謙舎の清水春斎、広島心学の祖矢口来応、江戸参前舎五世都講である中村徳水と並び、大島有隣門下の四天王と称せられたほどの人物でした。

（つづく）

松山藩庁の松山城（愛媛県松山市）

（社会教育課　町史・文化財担当編）

画像は開発中のため、変更となる場合があります。

2/1 すぎとネット町役場 オープン

これまで多くの人が「ちょっと不便」と感じていたことが、デジタル化によって「ちょっと便利」に代わります。

ネット町役場とは？

子育て、介護等に関する申請・届け出など、町役場には、色々な手続きがあります。ネット町役場は、これらの手続きのうち、スマートフォン、タブレット、パソコン端末を使うことで役場に来ることなくオンラインで出来る手続きを、見やすく、探しやすく整理したウェブサイトです。

ネット町役場のいいところ

- 夜間、休日など、24時間いつでも手続きを行えます。
- 自宅やオフィス、どこでも手続きを行えます。
- スマートフォンを使って手続きを行えます。

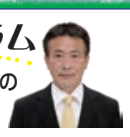
今後、利用できる手続きを拡充していきます。

問合せ　秘書広報課　広報広聴担当　内線286・デジタル推進室　内線208

VEGETABLE OIL INK

UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン（UDフォント）を使用し、読みやすい書体を採用しました。

町長コラム　新しい杉戸への挑戦！



町長コラムについては、紙面の都合上、1月号はお休みさせていただきます。

発行　杉戸町／編集　秘書広報課　〒345-8502 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地2丁目9番29号
☎0480(33)1111 FAX 0480(33)4550　ホームページアドレス http://www.town.sugito.lg.jp/